

その22 山之上

(平成9年7月15日号—第190号)

山之上という地名は、枚方丘陵の中腹に位置し、天野川付近から見ると小高い山になっているところから名づけられ、その昔は南條郷と呼ばれていたのが、元和3年(1617)に山之上村に変わったと旧『枚方市史』に書かれています。

さて、現在は住宅地のイメージが強いのですが、戦前は竹製品の産地として知られていたことをご存じでしょうか。山之上は、もともと、耕作地の少ない村でした。そこで、江戸時代の末期ごろから、農家の副業として竹製品の生産を始めたのが起源だとされています。

明治中期以降は技術が改良され、「花かご」や「ざる」などが盛んにつくられるようになり、昭和7年には、竹細工出荷組合も組織されました。昭和13年ごろから、代用品増産の国策に呼応して、竹かごの輸出や「げた」、「帽子」、「靴底」など生活用品にも竹材を応用し、販路の拡張に乗り出しました。戦時中は、炭鉋や工場の作業用として陸軍から大量注文があるほど山之上の竹製品は有名なものでした。



38 竹細工製作風景

しかし、戦後、プラスチック製品の登場や材料の真竹の激減、後継者不足などのため、今では、竹製品を製作する人は急減し、1人となりました^{*1}。かつて家庭でも当たり前のようであった竹製品は、今や高級民芸品として店頭に並んでいます。

農村から住宅地へと大きく移り変わった山之上地域ですが、どこか竹のような清潔さとしなやかさを思わせる町並みが続いています。

^{*1} 現在はもうだれも製作する人はいなくなった。